

カリキュラムポリシー

聖マリア学院大学専攻科助産学専攻では、建学の精神であるカトリックの愛の精神に基づく教育理念と教育目標を根幹に置き、ディプロマ・ポリシーに沿ってカリキュラムを編成している。

- ① カリキュラムは「専門基礎分野」と「専門分野」の2分野から構成され、専門分野はさらに「助産実践領域」と「発展応用領域」の2領域から成る。
- ② 「専門基礎分野」においては、建学の精神に基づくキリスト教的な人間観・生命観・倫理観を養い、対象の持てる力と自然性を尊重したケア／ケアリングを実践する能力の育成を図る。このために、人間の尊厳と生命倫理、基礎助産学、性と生殖の形態機能等の科目が配置されている。
- ③ 専門分野の「助産実践領域」では、各ライフステージあるいは多様な環境・状況下（各地域や国際社会、変動する社会、高度先進医療下 等）にある対象の特徴を理解し、さらには対象の個別性・多様性を全人的に理解するための能力育成を図るために、助産診断・技術学ならびに地域・国際母子保健学等の科目を配置している。また、対象理解に基づく、根拠の明確な助産実践を創造（展開）する上で必要とされる基本的な助産診断力ならびに助産技術力を段階的に育成するために、助産学実習の科目を基礎と発展の2つに分けて配置している。
- ④ 専門分野の「発展応用領域」では、建学の精神に基づき、ハイリスク状況にある対象（すなわち「特別な脆弱性を有する対象」）への助産実践を創造（展開）する上で必要な能力の育成を図るために、周産期ならびに胎児・新生児・乳幼児のハイリスクケアに関する科目を配置している。加えて、自らの専門職者としての役割と責務を踏まえ、助産における課題に対して探求的に取り組み、助産学ならびに助産ケアの発展に貢献するための基礎的能力を育成するために、助産学研究の科目を配置している。